

「前衛」写真の精神： なんでもないものの変容

瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄



牛腸茂雄《SELF AND OTHERS 42》1977年（2023年プリント） 個人蔵

2023年7月29日〔土〕～9月24日〔日〕

前期：7月29日〔土〕～8月27日〔日〕 後期：8月29日〔火〕～9月24日〔日〕

瀧口修造生誕120年、阿部展也生誕110年、大辻清司生誕100年、牛腸茂雄没後40年

美術評論家の瀧口修造（たきぐち・しゅうぞう）、絵画と写真の分野で活躍した阿部展也（あべ・のぶや）、そして写真家の大辻清司（おおつじ・きよじ）、牛腸茂雄（ごちょう・しげお）。1930年代、「前衛写真」の名のもとに、シュルレアリスムの影響を受けた技巧的な写真が多く発表されますが、写真におけるシュルレアリスムとは、「日常現実のふかい襞（ひだ）に潜んでいる美を見出すこと」であると瀧口は考えました。瀧口とともに「前衛写真協会」を立ち上げた阿部は、その言説に呼応するように、街頭や旅先の風景にカメラを向け、『フォトタイムス』誌上で発表します。まさに前衛写真協会が議論を交わしていた30年代後半の『フォトタイムス』を手にした大辻は、瀧口と阿部に大きな影響を受けながら、戦後まもなく写真家としてのキャリアをスタートさせます。そして、70年代には「なんでもない写真」に代表される写真シリーズ「大辻清司実験室」へとたどり着きました。大辻のもとで写真を学んだ牛腸は、自身の写真を「見過ごされてしまうかもしれないぎりぎりのところの写真」と表し、独自の視点で周囲のひとびとを捉えました。4人の交流と創作をたどりながら、1930年代の前衛写真から80年代にわたる日本昭和写真史の一断片をご紹介します。

開催概要

展覧会名	「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容 瀧口修造・阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄
会場	新潟市美術館 企画展示室
会期	2023年7月29日(土)～9月24日(日) 51日間 前期：7月29日(土)～8月27日(日)／後期：8月29日(火)～9月24日(日) ※大幅な展示替えがあります
内覧会	2023年7月28日(金) 午後2時～午後4時
開館時間	午前9時30分～午後6時(観覧券の販売は閉館30分前まで)
休館日	月曜日[ただし8月14日、9月18日は開館]、9月19日[火]
観覧料	一般1,000[800]円、大学・高校生800[600]円、中学生以下無料 ※[]内は20名以上の団体料金・リピーター割引料金・あっちも割引料金(新潟市新津美術館企画展観覧券提示で団体料金に割引。1枚につき1回限り1年間有効)
主催	新潟市美術館
特別協力	武蔵野美術大学 美術館・図書館
企画協力	株式会社アートインプレッション
お問合せ先	新潟市美術館 [担当：児矢野あゆみ、上池仁子] 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9 TEL:025-223-1622 FAX:025-228-3051 E-mail:museum@city.niigata.lg.jp

見どころ

前衛写真(シュルレアリスムの影響を受けた写真)から「なんでもない」写真へ ——新たな視点から写真史をみる

1930年代に、技巧を凝らさないストレートな写真でもシュルレアリスム写真が可能だと考えた瀧口修造。瀧口とともに「前衛写真協会」を立ち上げ、自らも議論に参加するとともに瀧口の言説に呼応する作品を発表した阿部展也。そして、30年代の彼らの理論に影響を受けつつ、「なんでもない」写真へとたどり着いた大辻清司。大辻の指導のもとで写真を学んだ牛腸茂雄。30年代から80年代にかけて変化する写真表現と「前衛」の在り方を、約300点の作品と資料を通してご紹介します。

新潟県出身の写真家、牛腸茂雄の桑沢デザイン研究所時代の課題作品を一挙公開

大辻清司のもとで学んでいた頃の貴重な写真作品(約30点)です。新潟市美術館で2004年に開催した回顧展「牛腸茂雄 1946-1983」、2014年に開催した「コレクション展Ⅲ 牛腸茂雄 〈わたし〉という他者」以来の展示となります。

前期/後期で150点近くの展示替えを予定

大辻清司の《大辻清司実験室》、牛腸茂雄の《日々》《SELF AND OTHERS》《見慣れた街の中で》シリーズ作品については、前期と後期ですべて展示替えを行います。

展示構成

第1章 1930-40年代 瀧口修造と阿部展也 前衛写真の台頭と衰退

瀧口修造は、写真の本質となる「記録性の重視」と「オブジェの発見」を提唱し、ストレートな写真でもシュルレアリスム写真は実践できるとした。その例として紹介したのが、ウジェーヌ・アジェの写真である。本章では、写真雑誌『フォトタイムス』29冊を展示することで、瀧口と阿部展也らによって結成された「前衛写真協会」の活動を紹介。あわせて、アジェ、阿部展也の写真作品、さらには前衛写真協会と同時期に活動をした写真家たち（永田一脩（ながた・いっしゅう）、濱谷浩、小石清、下郷羊雄（しもざと・よしお）、坂田稔）の作品を紹介する。

瀧口修造（美術評論家／1903～79）

富山県生まれ。慶應義塾大学英文科卒業。美術評論家、詩人、芸術家として活動した。戦前から日本における前衛芸術、とりわけシュルレアリスムの紹介と普及に大きく貢献するとともに、1930年代からさまざまな雑誌に写真に関する文章も発表。シュルレアリストたちの写真のなかでも、パリで活動したウジェーヌ・アジェ（1857－1927）による、都市の様相を記録した写真を高く評価した。38年には阿部展也らとともに前衛写真協会を結成し、理論的な面で大きく貢献した。

阿部展也（画家・写真家／1913～71）

新潟県五泉市生まれ。本名は芳文。1948年以降は展也の名で活動した。戦前はキュビズムやシュルレアリスムの影響を受けた絵画を発表。36年頃、写真を撮り始める。37年、瀧口修造と共に詩画集『妖精の距離』（春鳥会）を刊行。38年、前衛写真協会結成に参加。戦後は、絵画制作のかたわら、写真分野を含む評論活動を展開。49-52年には、美術文化協会写真部で大辻清司ら後進の指導を担った。53年以降は、インドや東欧を含む世界各地を訪れてルポルターージュ写真を撮影した。

第2章 1950-70年代 大辻清司 前衛写真の復活と転調

大辻清司は、『フォトタイムス』との出会いがきっかけで写真家を志す。本章では、阿部展也が演出し写真撮影を大辻が行ったコラボレーション作品、50年代のオブジェを撮影した写真作品（雑誌『アサヒグラフ』の連載「APN」のためのカット）、アジェを意識した側面のある70年代の「大辻清司実験室」シリーズの「なんでもない」写真を中心に紹介する。

大辻清司（写真家／1923～2001）

東京都生まれ。40年、近所の書店に積まれた『フォトタイムス』と出会い写真家を志す。『フォトタイムス』は、瀧口と阿部がメンバーとなった前衛写真協会の活動の場であった。53年には若手芸術家の領域横断的なグループ「実験工房」と、デザイナーを中心とした「グラフィック集団」に参加。58年から桑沢デザイン研究所で写真の授業を担当し、高梨豊や牛腸茂雄などの写真家を育てた。68年には学生の間で流行している写真表現に鋭敏に反応し、「コンポラ写真」と呼ばれるこの傾向を言説で後押しした。



大辻清司のもとで写真を学んだ牛腸茂雄は、自らの写真を「見過ごされてしまうかもしれないぎりぎりのところの写真」と表し、日常の風景や人々を撮影し続けた。本章では、大辻に指導を受けた桑沢デザイン研究所の課題作品をはじめ、《日々》（1971）、《SELF AND OTHERS》（1977）、《見慣れた街の中で》（1981）といったシリーズを紹介する。

牛腸茂雄（写真家／1946～83）

新潟県加茂市生まれ。1965年、桑沢デザイン研究所リビングデザイン科入学。67年に卒業後、同研究所で主任講師を勤めていた大辻清司の強い勧めで写真専攻へ進学する。卒業後も、雑誌への写真掲載を続けながら、71年、桑沢時代の友人・関口正夫と写真集『日々』を自費出版。活動領域は写真にとどまらず、75年にはインクプロットによる個展「闇の精」を開催。77年、『SELF AND OTHERS』を自費出版。80年、インクプロットによる画集『扉を開けると』を出版。81年、『見慣れた街の中で』を自費出版。次作『幼年の「時間（とき）」』に着手するものの、83年、36歳の若さで死去した。

関連イベント

1 [講演会] 大辻アーカイブでたどる瀧口修造、阿部展也、牛腸茂雄

日時：2023年9月16日（土）午後2時～午後3時30分

講師：大日方欣一氏（写真／映像研究、九州産業大学芸術学部教授）

2 [美術講座] 阿部展也の写真作品における変化について

日時：2023年8月27日（日）午後2時～午後3時30分

講師：上池仁子（当館学芸員）

3 [美術講座] 「ぎりぎりのところの写真」を考える 牛腸茂雄が捉えたもの

日時：2023年9月9日（土）午後2時～午後3時30分

講師：児矢野あゆみ（当館学芸員）

※1～3いずれも、会場：講堂／申し込み不要、聴講無料、定員80名（先着順）

4 担当学芸員によるギャラリートーク

2023年8月6日（日）、9月3日（日）

各日午後2時～（30分程度） 申し込み不要、要当日観覧券

5 Lounge N きままプログラム「なんでもないものの集合」

その場で誰でも気軽に参加できる造形プログラム。Lounge Nに置かれた「もの」を被写体にして写真を撮り、Instagramへ投稿してみよう！ ハッシュタグ #なんでもないものの集合

広報用画像の使用・クレジットについて

※キャプションは、**作者名・作品名・制作年・所蔵元を明記**してください。

※トリミング加工をしての掲載はできません。

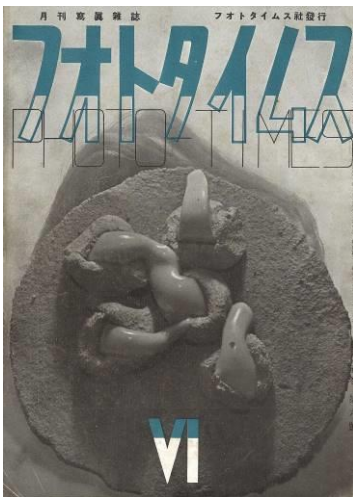
※掲載作品の展示期間については、当館 web サイトをご確認ください。



①牛腸茂雄《SELF AND OTHERS 42》1977 年
(2023 年プリント) 個人蔵



②大辻清司《瀧口修造夫妻、書齋にて》1975 年
(2003 年プリント) 富山県美術館蔵



③『フォトタイムズ』15 巻 6 号表紙 [写真：阿部
芳文 (展也)] 1938 年



④大辻清司《航空機》1957 年 (1980 年代プリント)
渋谷区立松濤美術館蔵



⑤牛腸茂雄《見慣れた街の中で 19》1978-80 年
(2004 年プリント) 新潟市美術館蔵

「前衛」写真の精神：なんでもないものの変容
取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆内覧会（2023年7月28日午後2時～）の取材、記事掲載時の作品写真（画像データ）及び読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申込みください。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、1部ご恵与ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス (データ送付先)	
媒体名	
取材予定日	内覧会 ・ 内覧会以降 (月 日 時頃) ・ 取材予定なし
取材スタッフ	計 名 (内カメラクルー 名)
掲載・放映ご予定日	月 日
チケットプレゼントご希望	組 枚 * 1媒体につき10組20名様まで
通信欄 (画像のご希望等)	